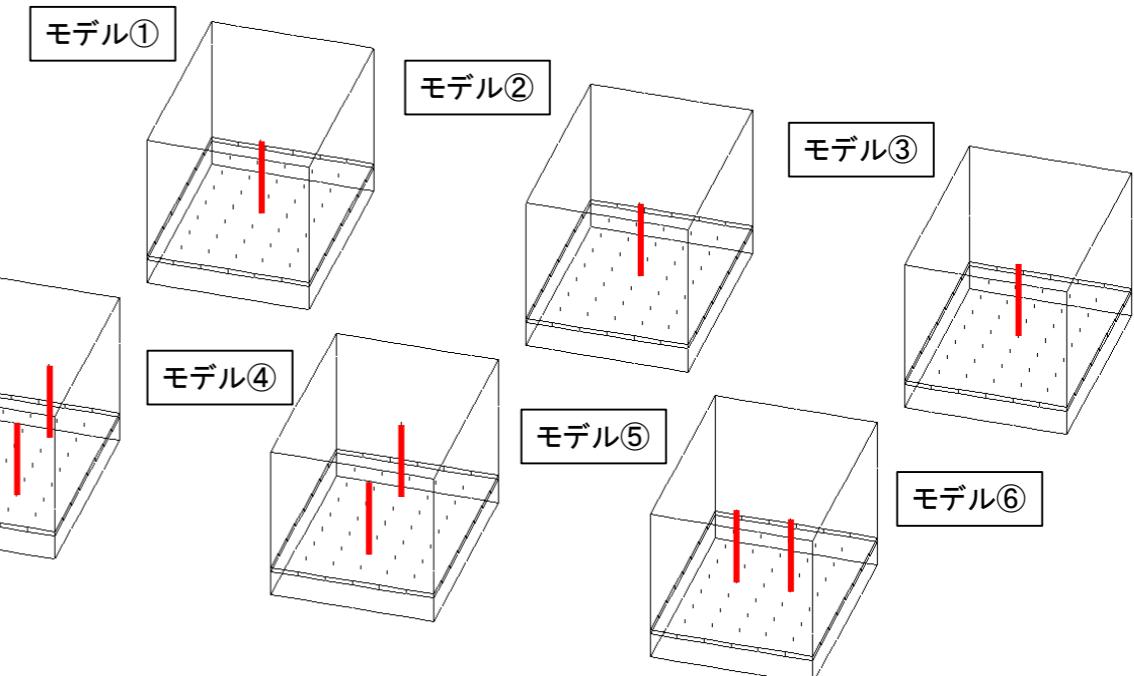
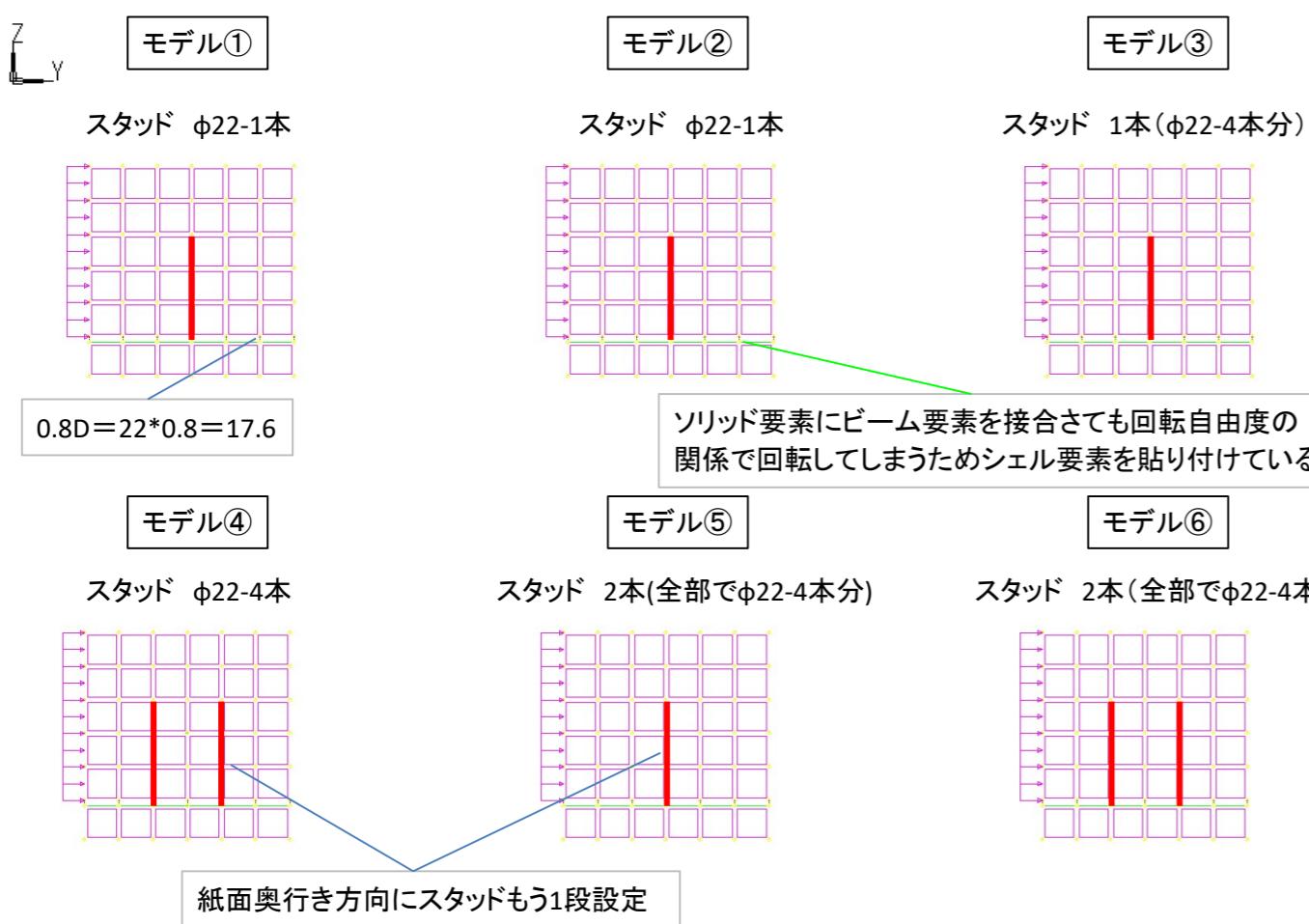
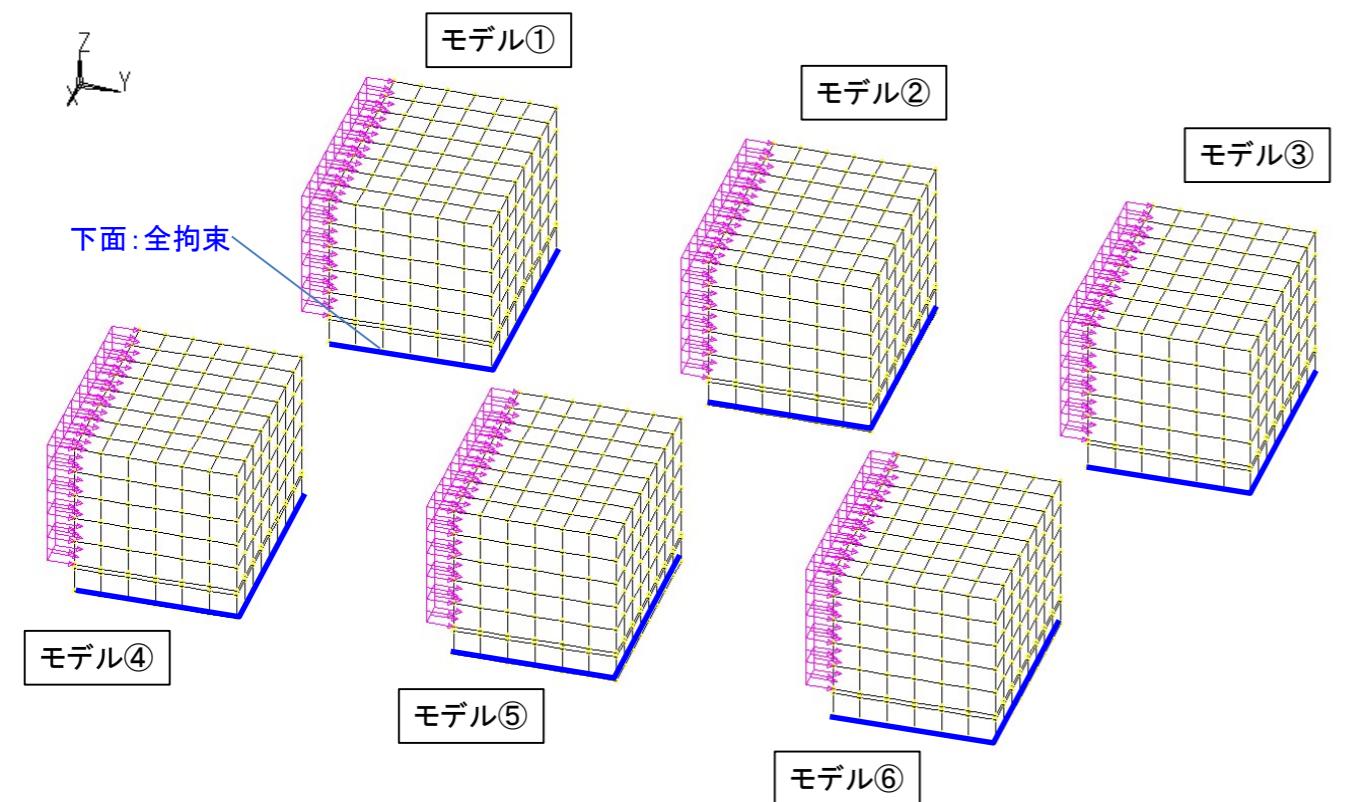
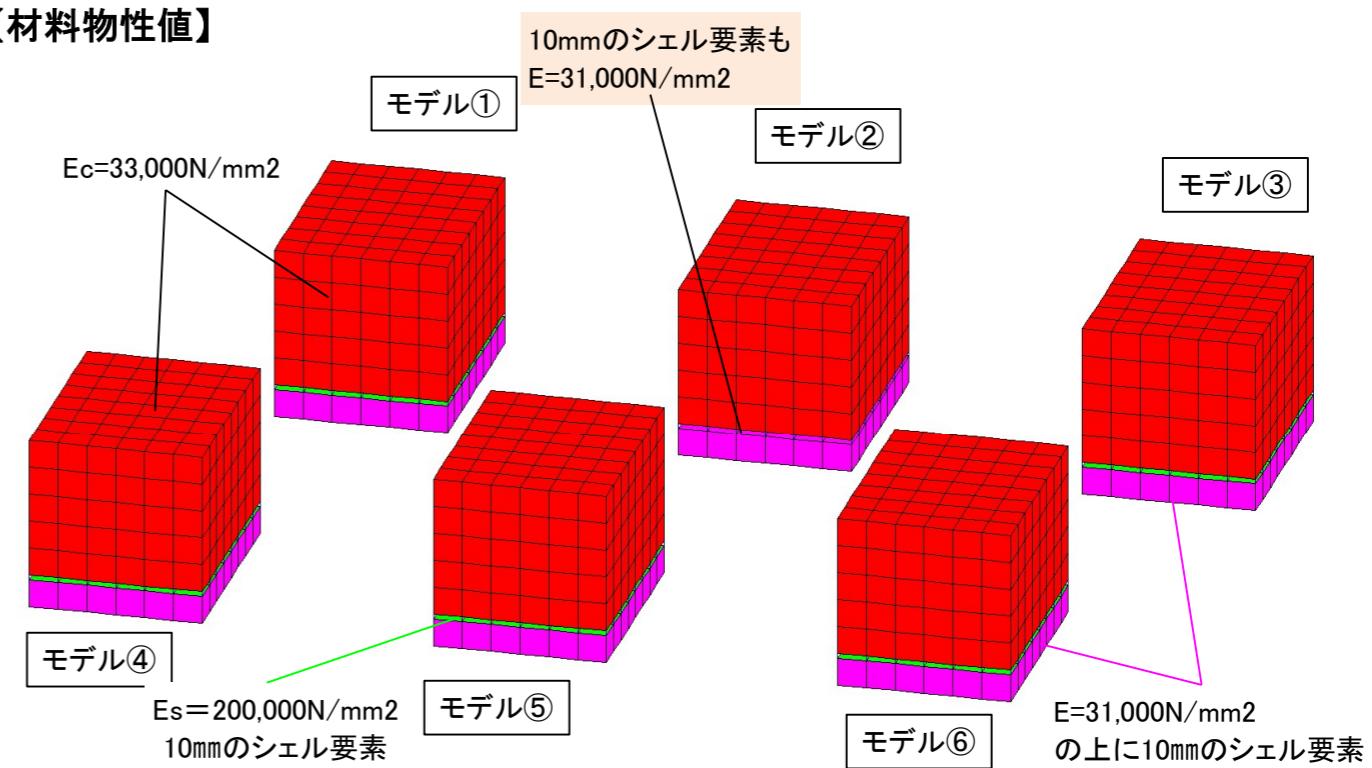


【モデル図・拘束条件図】

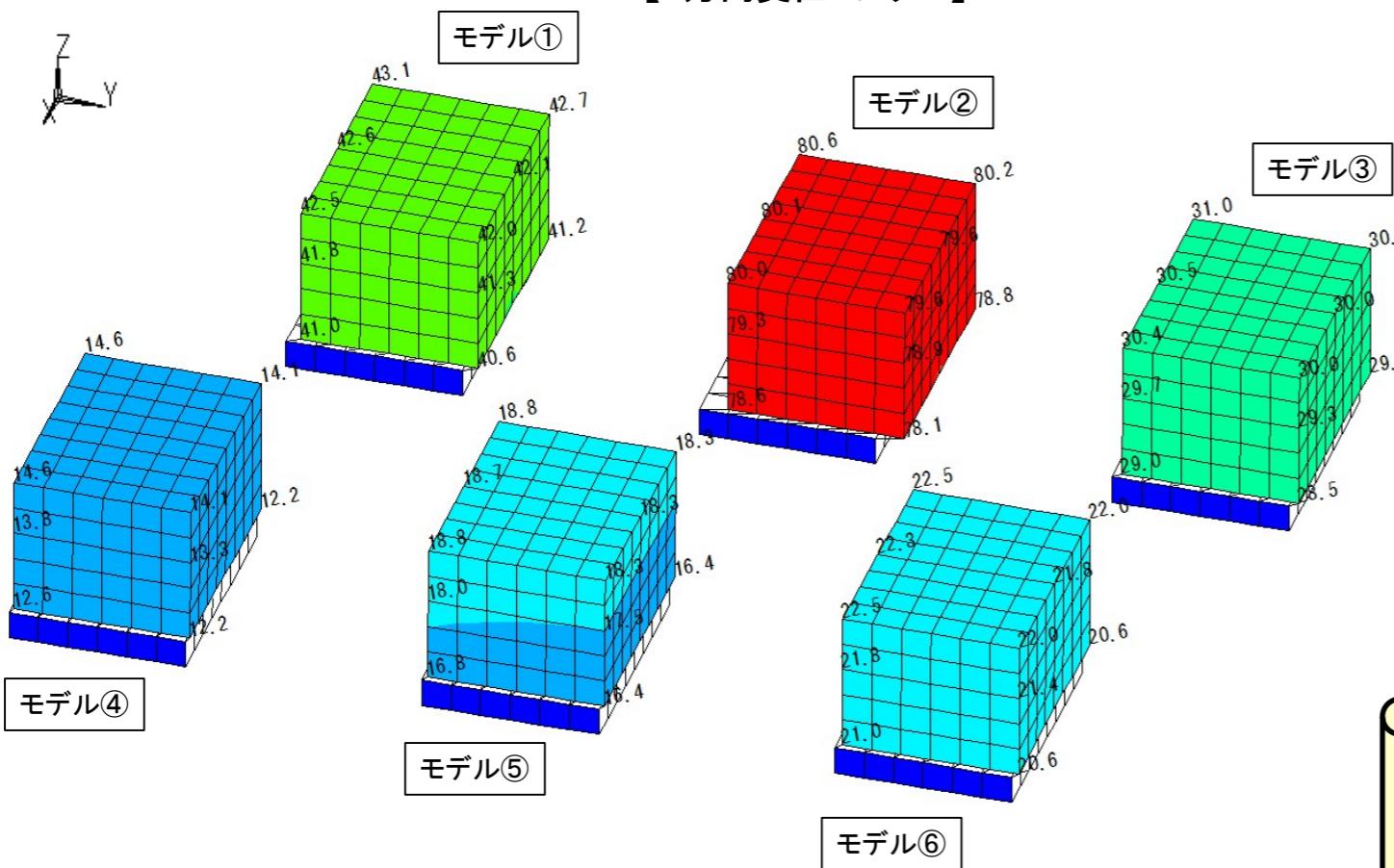


物性	モデル	モデル①	モデル②	モデル③	モデル④	モデル⑤	モデル⑥
コンクリート	E_c	33,000	33,000	33,000	33,000	33,000	33,000
鋼材	E_s	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
スタッド	本数	1	1	1(4本分)	4	2	2
$\phi 22$	A_s	380.13	380.13	1,521	380	760	760
	I	11,499	11,499	45,996	11,499	22,998	22,998
	J	22,998	22,998	91,992	22,998	45,996	45,996

【材料物性値】

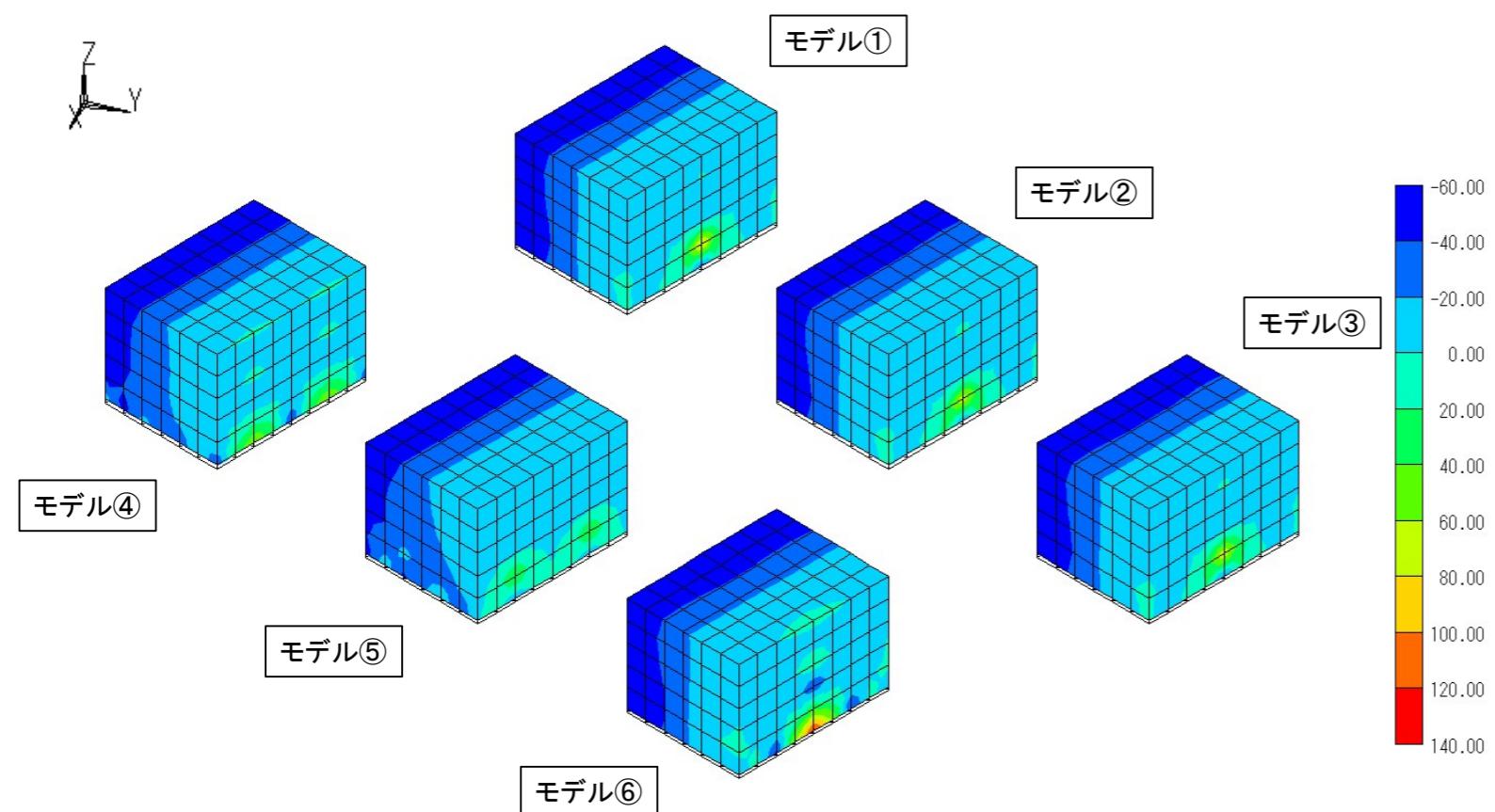


【Y方向変位センター】



【おまけ】

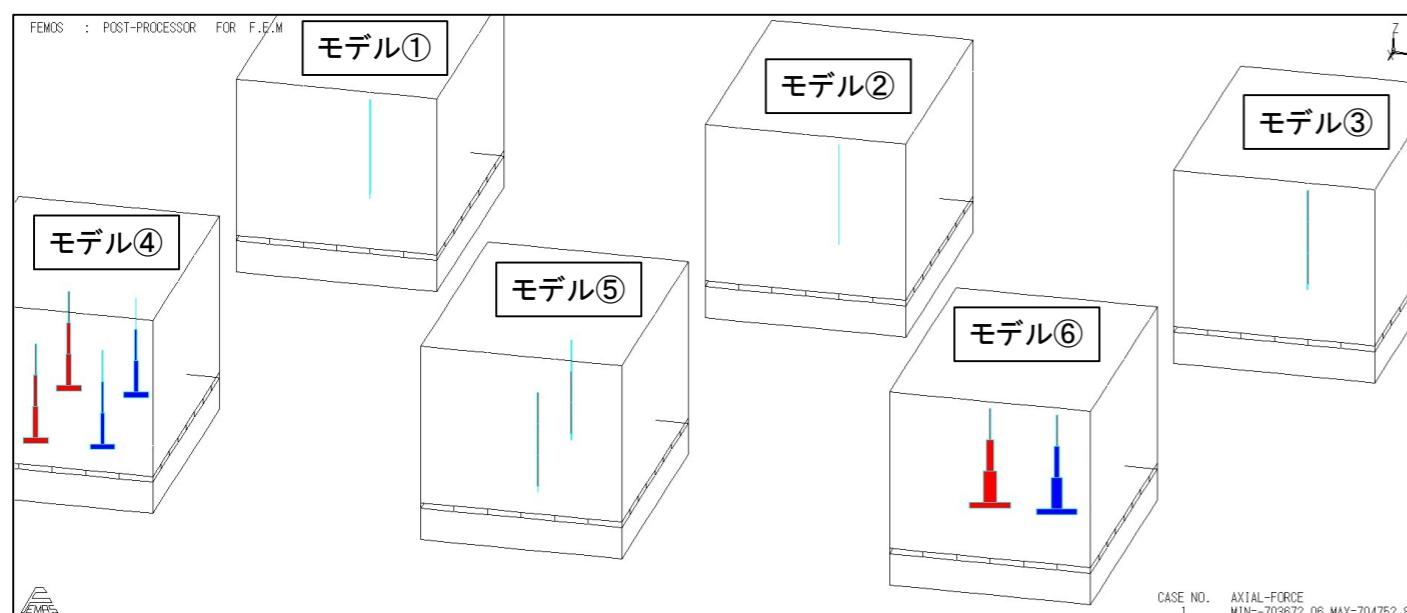
【 σ_y 応力センター】



【考察】

- ◆応力についてはスタッドを1本or複数本でモデル化した位置での応力に違いが見られるが、離れれば違いはあまりなくなってくる。
- ◆スタッドの軸力、せん断力などは下図に示すように配置によって若干異なってくる。
- ◆スタッド基部のせん断力が同じでもモデル②の変位に違いが出たのは前頁で述べたように基部剛性が小さくなり水平、回転の変形が大きくなつたためと考えられる。しかし応、力はモデル①②③では差があまり見られなくなっている。

【スタッド軸力図】



【スタッドせん断力図】

